

3. 福知山市中心市街地の活性化の目標

[1] 福知山市中心市街地活性化の目標

福知山市中心市街地活性化の基本的な方針を踏まえ、以下の3つの目標を基本計画期間における目標として定める。

(1) まちなか観光による人々が集う賑わいあるまち

中心市街地活性化の基本的な方針である「城下町ならではの地域資源を活かしたまちなか観光の促進」の実現に向け、区域内に存在する城下町福知山の地域資源を顕在化させ、魅力ある集客拠点の集積を生み出すことで、地域の価値を高め回遊性を向上させる。

特に、前回計画で課題として挙げられるお城・広小路・駅を繋ぐ導線整備や、多様なライフスタイルや観光ニーズに対応した宿泊・居住空間づくりなどを行うとともに、まちなか観光の充実を図る。

(2) 「人・もの・情報」が集まり、誰もが快適に暮らせるまち

中心市街地活性化の基本的な方針である「人・もの・情報が集積した利便性の高い都市機能の強化」の実現に向け、行政、市民、民間企業、福知山まちづくり株などがともに協働し、歴史文化・公共サービスの提供を図る。

具体的には、厚生会館改修事業で市民の利便性を高める効果を発現させることや、駅北口公園賑わい事業により観光案内所と連携し福知山ならではのイベントを実施すること、佐藤太清記念美術館での特別展事業などを行う。また、駐車場不足の状態である福知山城周辺の観光駐車場を拡張することや観光情報の発信を行うことで福知山に訪れる人を増やす。

(3) 生活の質を高め、「しごと」の場がある活力あるまち

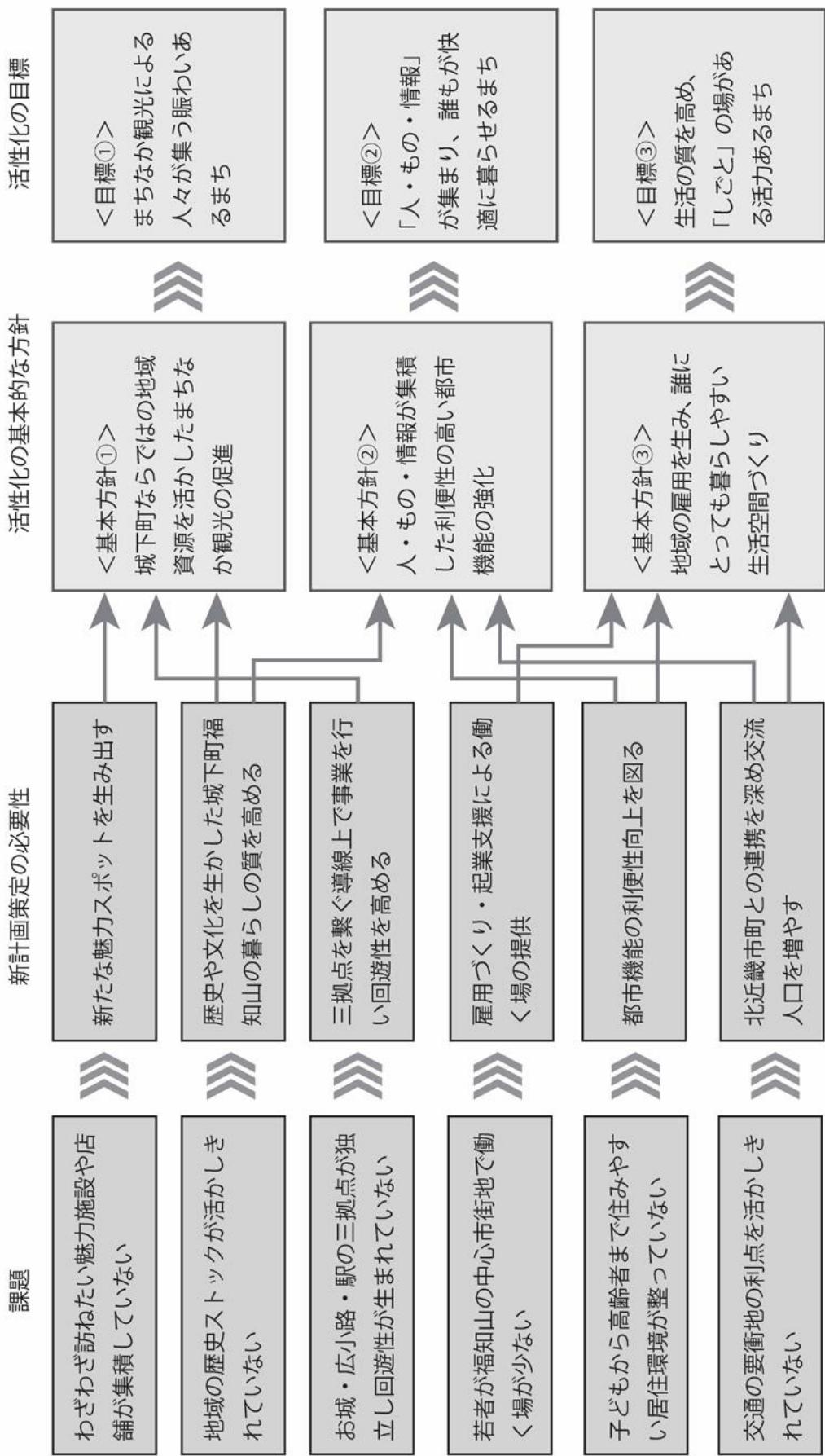
中心市街地活性化の基本的な方針である「地域の雇用を生み、誰にとっても暮らしやすい生活空間づくり」の実現に向け、中心市街地で新たにビジネスを始めたいと思える環境をつくる。

具体的には、これまでの中心市街地活性化事業において成果をあげてきた、福知山まちづくり株や民間事業者によるテナントミックス事業や、多面的な創業支援など、チャレンジしやすい環境づくりを行う。

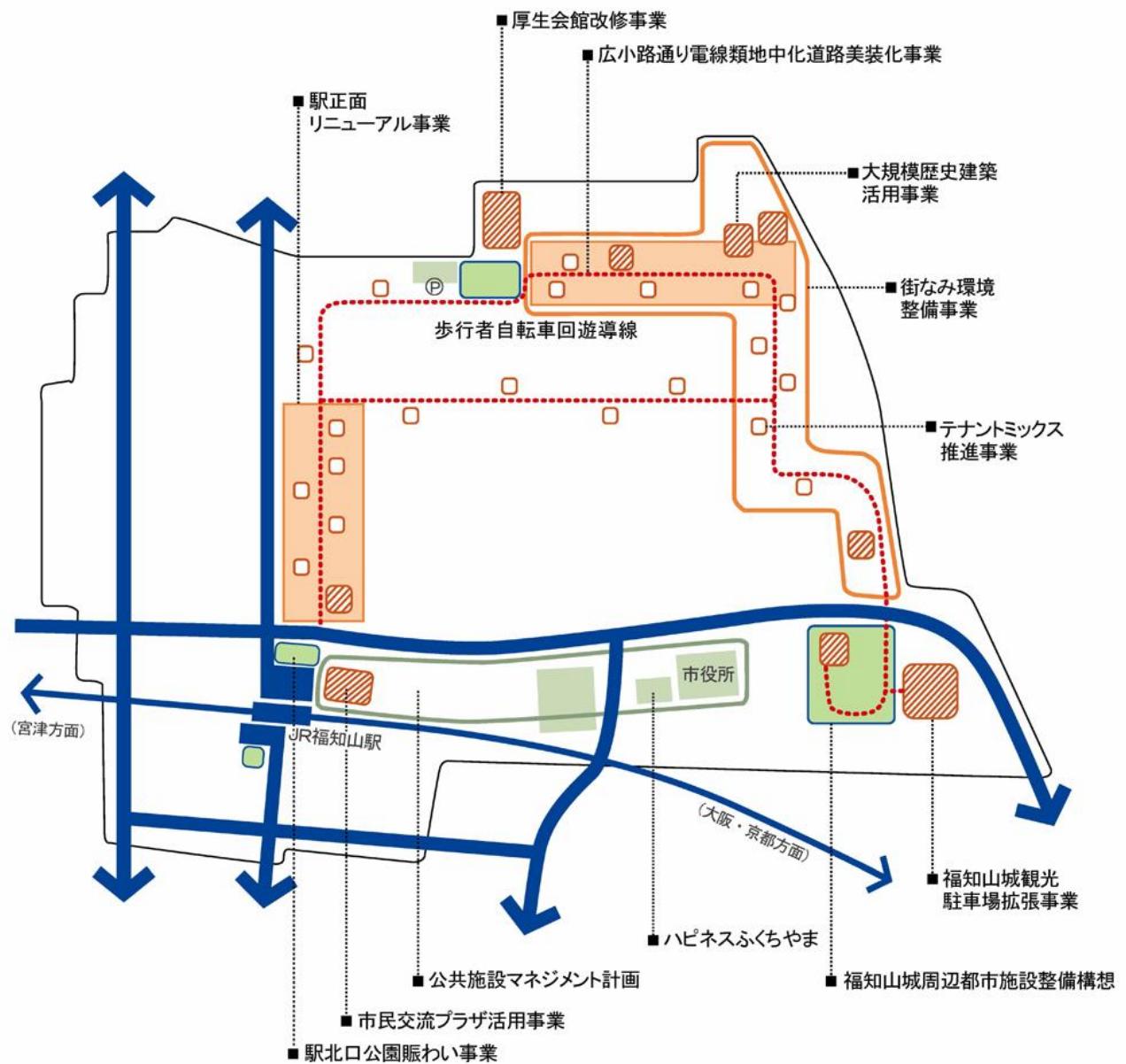
[2] 計画期間の考え方

本基本計画の計画期間は、平成28年4月から、事業が進捗し、その実施効果が現れると考えられる平成33年3月とする。

■課題から目標までのフロー図



■目標達成に向けた事業展開図



[3] 数値目標指標の設定

(1) 「歩行者・自転車通行量」(平日・休日の平均)

「まちなか観光による人々が集う賑わいあるまち」の達成を把握するための指標として「歩行者・自転車通行量」(平日・休日の平均)を設定する。

前回計画では、同様の数値目標を掲げていたが、活性化事業の効果を判定しづらい測定地点を含んでいたことから、今回は中心市街地活性化の戦略に基づき、福知山城・広小路・駅周辺の3拠点とそれらを繋ぐ4地点の合計7地点で測定することとする。

(2) 「歴史文化・交流施設利用者数」

「『人・もの・情報』が集まり、誰もが快適に暮らせるまち」を達成するための指標として、「歴史文化・交流施設利用者数」を設定する。

中心市街地には歴史や文化施設や公共サービスを提供する交流施設が点在している。こうした施設には人が集まり、情報が交換され新たな価値が創造されるきっかけになる可能性がある。そこで、本計画においては7つの歴史文化・交流施設利用者数を目標指標として測定することとする。

(3) 「新規店舗開業数」

「生活の質を高め、『しごと』の場がある活力あるまち」を達成するため、福知山市中心市街地活性化の取り組みの核となるテナントミックス事業や創業支援における事業を中心とする事業を行うことで「新規店舗開業数」を増加させることを目標指標として設定する。

●中心市街地活性化の全体像

活性化の目標（全体のテーマ）（法9条3項2号）

◎ 歴史と文化が育んだ豊かな暮らしと賑わい交流のまちづくり

～城下町福知山の個性を現代的にアレンジし、新たな価値を創造する～

基本方針①

- ・ 城下町ならではの地域資源を活かしたまちなか観光の促進
- ・ 城下町福知山の地域資源を顕在化させ、魅力ある集客拠点を集積させる
- ・ お城・広小路・駅を繋ぐ導線整備
- ・ 多様なライフスタイルや観光ニーズに対応した宿泊・居住空間づくり

基本方針②

- ・ 人・もの・情報が集積した利便性の高い都市機能の強化
- ・ 市民の利便性を高める価値ある公共サービスの提供
- ・ 市民力を高める交流・発信の場づくり
- ・ 福知山の歴史・文化を伝える情報発信機能の充実

基本方針③

- ・ 地域の雇用を生み、誰にとっても暮らしやすい生活空間づくり
- ・若い世代が福知山に住み暮らせる魅力ある雇用づくり
- ・多様なサービスを生み、地域経済を牽引する事業者を育てる起業支援

目標①

まちなか観光による人々が集う賑わいあるまち

《数値目標》

歩行者・自転車通行量（平日・休日の平均）

H27: 3,871(人/日)

→H32: 4,200 人(人/日)

目標②

「人・もの・情報」が集まり、誰もが快適に暮らせるまち

《数値目標》

歴史文化・交流施設利用者数

H26: 356,104 (人/年)

→H32: 390,000 (人/年)

目標③

生活の質を高め、「しごと」の場がある活力あるまち

《数値目標》

新規店舗開業数

H23～H27: 10(店舗数/5年間)

→H28～H32: 20(店舗数/5年間)

課題解決・活性化（目標達成）に向けた主な事業

①大規模歴史建築活用事業

②駅正面リニューアル事業

③福知山城周辺都市施設整備構想

④町家活用ゲストハウス施設整備事業

⑤まち歩き観光促進事業

①厚生会館改修事業

②市民交流プラザふくちやま活用事業

③ハピネスふくちやま活用事業

④佐藤太清記念美術館特別展事業

⑤駅北口公園賑わい事業

⑥福知山城観光駐車場拡張事業

⑦観光情報発信力強化事業

①中心市街地テナントミックス推進事業

②中心市街地創業支援事業

エリア内への波及効果

- ・前回計画で強化したお城・広小路・駅の三拠点を①の取組みによりさらに強化
- ・②と③の取組みにより、三拠点を繋ぐ導線を強化する
- ・④と⑤の取組みにより、滞在時間を増やし中心市街地の利用範囲・頻度を増やす

- ・①、②、③、④、⑤の取組みにより、既存公共施設の充実を図り利便性を高める
- ・⑥の取組みにより、駐車場不足を解消し、利用者増につなげる。
- ・⑦の取組みにより、観光情報を発信し、歴史文化・交流施設の利用者の増加につなげ、まちなかの回遊性の向上を図る

- ・①の取組みにより、ハード面で時代のニーズにあった店づくりを支援・誘致する
- ・②の取り組みにより、ソフト面で店舗開業支援を行う

[4]数値目標の設定

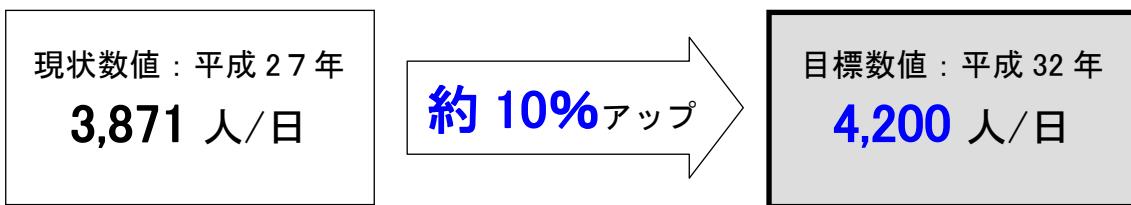
(1) 3つの数値目標

本計画において、以下の3つを数値目標として掲げる。

①「まちなか観光による人々が集う賑わいあるまち」の数値目標

「歩行者・自転車通行量」(平日・休日の平均)

まちなかでの賑わいを分かり易くとらえることができる数値として、歩行者・自転車通行量を設定し、測定地点7箇所で年2回(平日・休日)の平均を測定し、以下の数値まで向上させる。



②「『人・もの・情報』が集まり、誰もが快適に暮らせるまち」の数値目標

「歴史文化・交流施設利用者数」

地域の価値を高める文化・社会サービスを充実させることで、以下の数値まで向上させる。



③「生活の質を高め、『しごと』の場がある活力あるまち」の数値目標

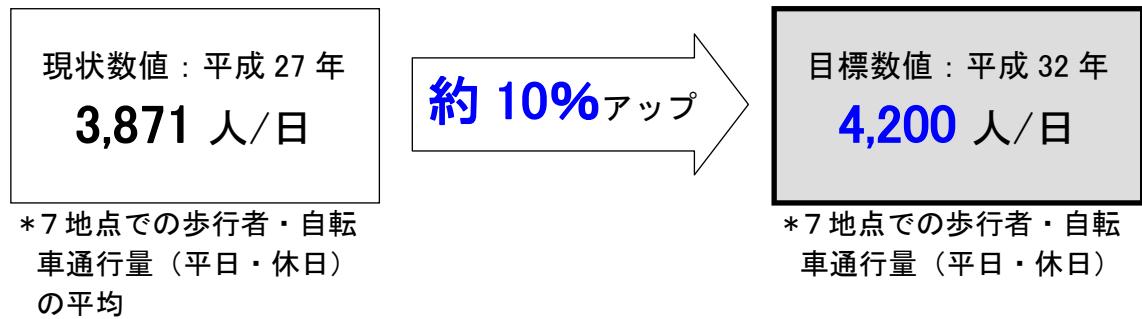
「新規店舗開業数」

中心市街地内において、民間事業者が行うテナントミックス事業や、または創業支援における新規出店者数を向上させる。



(2) 「歩行者・自転車通行量」(平日・休日の平均)

減少傾向となっている歩行者・自転車通行量を増加傾向へ転換させる。

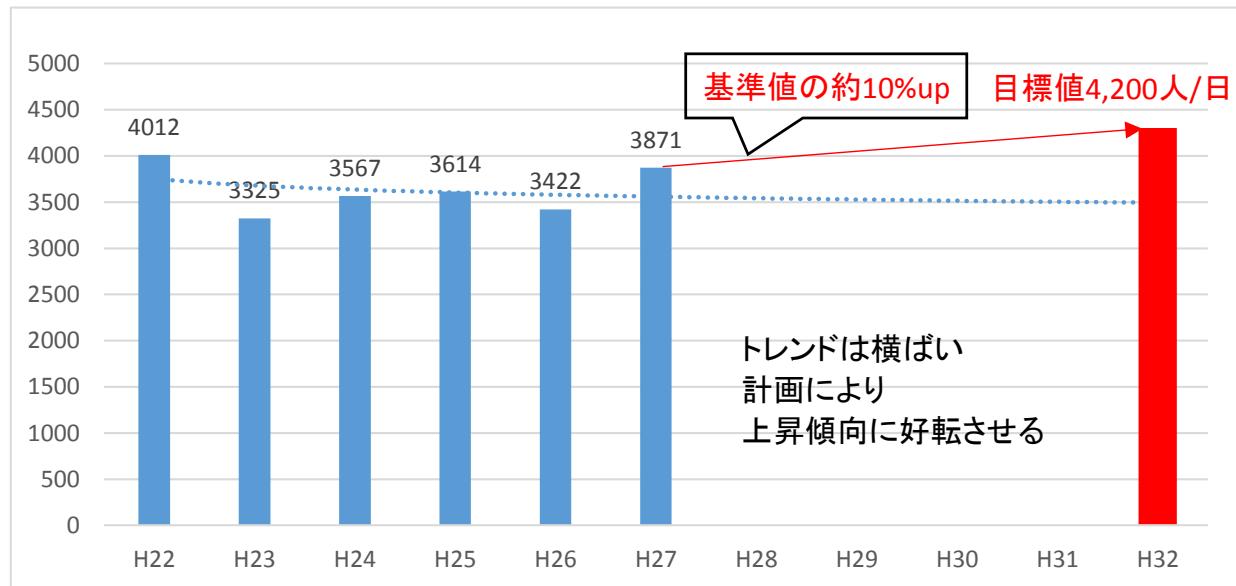


① 数値目標の設定理由

歩行者・自転車通行量の調査結果がある平成 20 年から前回計画の実施をした結果、トレンドとなる近似曲線から推測すると、緩やかになり横ばいとなっている。本計画をしない場合、緩やかに減少が続くことが予想される。

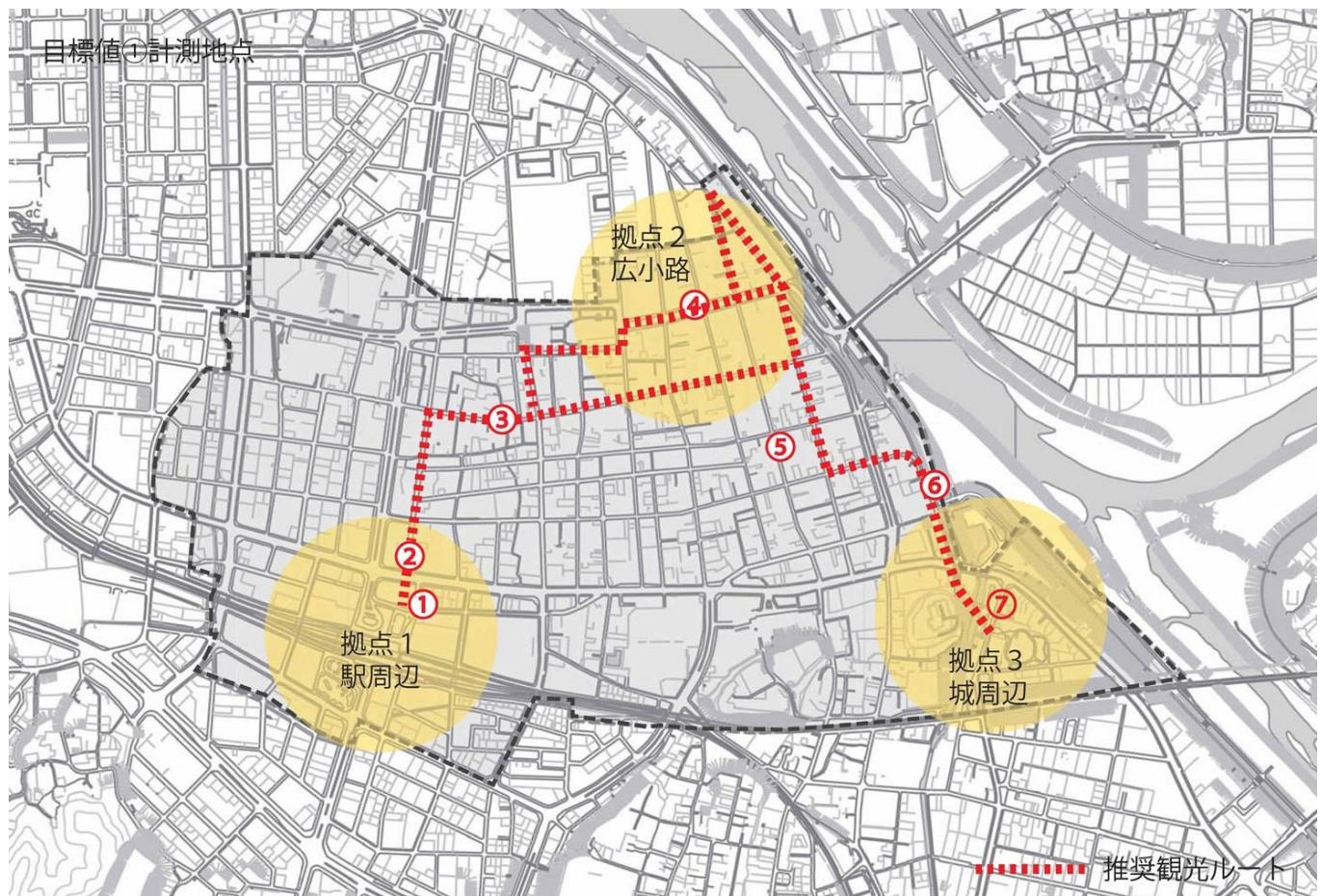
本計画においては、この減少傾向に歯止めをかけ、更に増加傾向にもっていくことを目標とする。数値目標としては、前回計画における目標アップ率約 10%を基準とし、平成 32 年の本計画完了時点で約 4,200 人/日を目標とする。

・「歩行者・自転車通行量」(平日・休日の平均) の数値目標



	H22	H23	H24	H25	H26	H27
城周辺(ゆらのガーデン前)	603	188	412	516	687	822
広小路商店街	910	884	815	844	654	834
駅周辺	517	594	661	582	594	630
京街道(旧松村邸裏)	393	296	300	401	328	336
駅正面通り商店街	737	659	543	585	592	685
新町商店街	502	411	580	368	312	326
あおい通り三丁目	350	293	256	318	255	238
合計	4012	3325	3567	3614	3422	3871

・歩行者・自転車通行量調査地点



②目標達成のための事業展開

〈目標数値について〉

現在 3,871 人である本市中心市街地の「歩行者・自転車通行量」（平日・休日の平均）を、現状の約 110% である目標数値 4,200 人を達成するためには、現状から 329 人程度の増加が必要となる。そのため、本基本計画においては次のような事業を実施することにより、目標数値を達成することとする。

現状	3,871 人／日
A. 大規模歴史建築活用事業 中心市街地内の大規模歴史建築を活用し、福知山の風土を五感で味わうことができる宿泊施設にリノベーションする事業。	38 人／日
B. 駅正面リニューアル事業 福知山駅正面に位置する駅正面通り商店街をまちづくりのコンセプトを策定し、空き家を活用してテナントミックス事業を行う。	164 人／日
C. 福知山城周辺都市施設整備構想 福知山城周辺賑わい創出施設（ゆらのガーデン）に続く第2弾プロジェクト。公共施設の再編とあわせて、文化・商業空間として整備する事業。	205 人／日
D. 町家活用ゲストハウス施設整備事業 中心市街地にある旅館を活用し、ゲストハウスとして改修し、交流人口を増やす事業。	24 人／日
E. まち歩き観光促進事業 長年の課題となっている駐車場不足を解消し、中心市街地の利用頻度を高める事業。	26 人／日
A～E の効果による歩行者・自転車通行量の増加	457 人／日 > 329 人／日

〈目標数値達成の根拠〉

A. 大規模歴史建築活用事業

中心市街地内における歴史ある大型建築を利活用し、宿泊施設として改修する事業。最大3部屋の宿泊施設とし、平均3人の利用で稼働率を70%で想定する。宿泊者は観光を目的としている人が多数であることから近隣の測定箇所3箇所往復すると、

●利用者がまちなか回遊をすることによる通行量の増加

$$3\text{部屋} \times 1\text{組} \times \text{平均3人利用} \times \text{稼働率70\%} \times 3\text{箇所} \times 2\text{（往復）} = 38\text{人増/日}$$

※事業のターゲットはカップル（2人）またはファミリー（4人）で高い金額を支払ってでも良い体験を買いたい層（平均3人）。宿泊施設については、活用を想定している建物の構造より設定した。稼働率は、国土交通省観光庁宿泊旅行統計調査（平成26年4月～6月・暫定値）の京都府数値（旅館、ビジネスホテル、シティホテルの平均値）を参照。

B. 駅正面リニューアル事業

福知山駅正面に位置する駅正面通り商店街をまちづくりのコンセプトを策定しリニューアルを目指す。空き家を活用してテナントミックス事業を行うための事業主体として、地元有志によるまちづくり会社を設立し事業に取り組む。空き家を5件テナントミックス事業により集客施設に改修するとして、1店舗あたり1日平均40人の集客と300日開業するとして、

●利用者がまちなか回遊をすることによる通行量の増加

$$5\text{店舗} \times 40\text{人} \times 300\text{日} \div 365\text{日} = 164\text{人増/日}$$

※前回計画で実施した広小路商店街テナントミックス事業4店舗の実績より、平均40人を飲食店の損益分岐点と設定。5店舗の内容はニーズ調査における「カフェ、ダイニング、レストラン、手づくりケーキ店、ベーカリーなど」の39.0%の回答よりスイーツ・カフェ・物販、その他、相乗効果を考え駅正面エリアの既存の人気店舗の業種と同じもの（ラーメン・焼肉屋等）を想定。

C. 福知山城周辺都市施設整備構想

福知山城周辺に5店舗の文化・商業施設を誘致するとして、1件当たりの来客数を1日平均50人、300営業日と仮定する。来店者の50%が調査地点を往復すると仮定すると、

●利用者がまちなか回遊をすることによる通行量の増加

$$5\text{店舗} \times 50\text{人} \times 300\text{日} \div 365\text{日} \times 50\% \times 2\text{（往復）} = 205\text{人増/日}$$

※店舗数については、前回計画で実施された近隣にある福知山城周辺賑わい創出施設整備事業（ゆらのガーデン）を参考し、活用を予定している土地及び建物の構造より設定。店舗内容は伝統技術の展示・体験設備、工芸製品の販売とカフェ・スイーツを想定。集客数については、ゆらのガーデン（飲食・物販）の平成27年5月のリニューアル以降5ヶ月の実績値1日平均1店舗当たり31人と伝統及び体験設備の丹波生活衣館の1日平均23人の合計から50人に設定。

D. 町家活用ゲストハウス施設整備事業

中心市街地にある旅館を活用し、ゲストハウスとして改修し、交流人口を増やす事業。1日当たりの宿泊者数を10人、稼働率を60%と仮定する。その全ての人が測定値2箇所を往復すると、

- 利用者がまちなか回遊をすることによる通行量の増加

$$10\text{人} \times 60\% \times 2\text{箇所} \times 2\text{（往復）} = 24\text{人増/日}$$

※稼働率は町家を活用した類似ゲストハウス（京都市・宮津市）の予約サイトより算出した稼働率30%～90%から平均して60%と算出。

E. まち歩き観光促進事業

長年の課題となっている駐車場不足を解消し、中心市街地の利用頻度を高める事業。

平成27年4月よりモデル事業として福知山パーキングの1時間無料化事業を展開しており、現在までの実績として過去3年間の平均に比べ1ヶ月当たり約800台利用者が増加しており、今後さらに広報の充実や商店街などとの連携を強めることで、さらに1ヶ月当たり400台の新規の利用者の獲得とリピータの利用の増加を図るものとする。平均2人の乗車、そのうち50%が測定地点を往復するとして想定すると、

- 利用者がまちなか回遊をすることによる通行量の増加

$$1\text{ヶ月} 400\text{台} \times 2\text{人} \times 12\text{ヶ月} \div 365\text{日} \times 50\% \times 2\text{（往復）} = 26\text{人増/日}$$

③平成30年11月変更における状況

A大規模歴史建築活用事業について、当初活用予定であった旧片岡家は老朽化により宿泊施設として活用困難な部分があることが判明。代替地を検討した結果、旧片岡家から約120mほどの距離にある旧樋口家に宿泊機能を持たせ、旧片岡家は一部建物を取り壊し、駐車場と飲食施設として一体的に整備することで、当初計画のとおり歩行者通行量の増加を見込む。

④フォローアップの方法

フォローアップの方法としては、計画期間中、年2回決まった時期に福知山市により測定する。

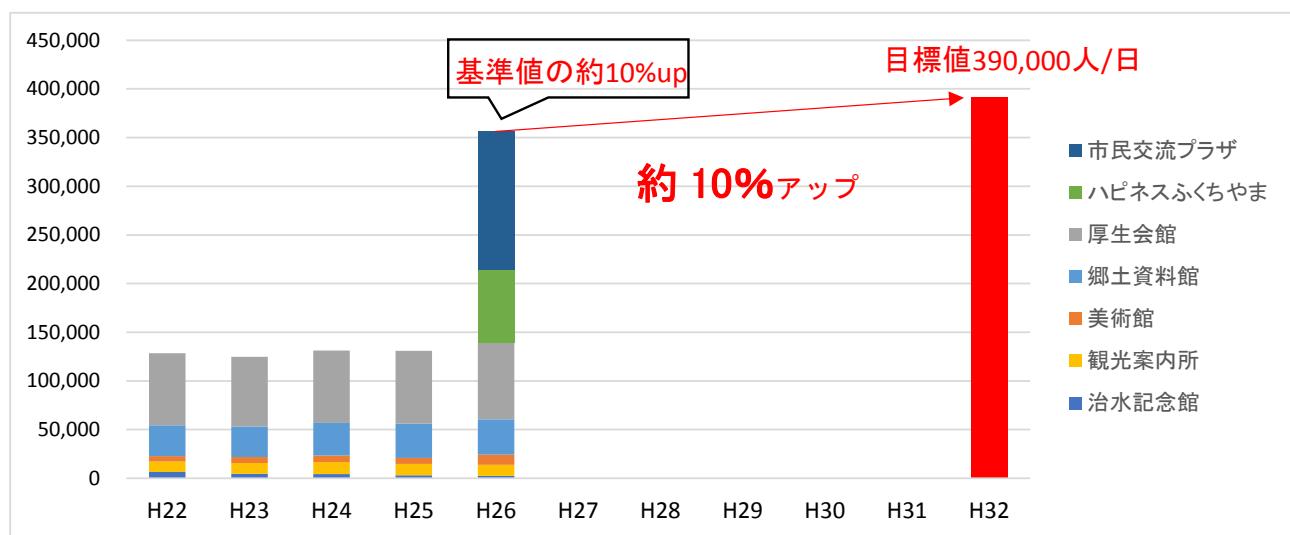
(3) 「歴史文化・交流施設利用者数」



①数値目標の設定理由

前回計画では大型の公共公益施設を2つ(市民交流プラザふくちやま・ハピネスふくちやま)整備し、都市機能の増進を図った。その結果、中心市街地は福知山市内で随一の都市機能集積エリアとなっており、市民の利便性を高めるエリアとなっている。また、歴史や文化施設も点在しており、こうした資源は街の価値を向上させる上で重要な要素である。そこで、本計画においては既存の都市施設の機能を強化し、継続して市民の利便性を高めることを目的とし、7つの歴史文化・交流施設利用者数増を目標値として測定する。前回計画期間では、後半に2つの公共公益施設がオープンし、一気に利用者数が増加しているが、今後の目標は本計画をすることをさらに継続して増加させる。数値目標としては、現状から約10%増加の390,000人の利用者を目標とする。

・歴史文化・交流施設利用者数の推移



	H22	H23	H24	H25	H26
市民交流プラザふくちやま					142,522
ハピネスふくちやま					74,116
厚生会館	73,953	71,556	74,296	74,737	78,829
郷土資料館	31,554	31,372	33,560	35,351	36,289
美術館	5,567	5,943	6,562	6,085	10,644
観光案内所	10,727	11,058	12,405	11,641	11,270
治水記念館	6,605	4,772	4,312	3,070	2,434
合計	128,406	124,701	131,135	130,884	356,104

※市民交流プラザは平成26年オープンのため、H26の実績とする。また、利用者数は生涯学習スペースの利用数とする

※ハピネスふくちやまは平成27年8月オープンのため、8月から10月までの実績と移転前の中央保健福祉センターの利用者数等を用いて推測

②目標達成のための事業展開

〈目標数値について〉

現在 356,104 人(推計値含む)である歴史文化・交流施設利用者数を目標値の 390,000 人(約 10% アップ)とするためには、33,896 人程度の増加が必要となる。そのため、本基本計画においては次のような事業を実施することにより、目標数値を達成することとする。

現状	356,104 人
A. 厚生会館改修事業 本市の文化振興の拠点である厚生会館について、社会環境に即した改修を行なうとともに、機能改善を目指す事業	3,941 人
B. 市民交流プラザふくちやま活用事業 市民交流プラザふくちやまでの講座開設者を充実するための広報活動等を実施し、市民に社会参加の機会や新たな価値との出会いの場を提供する事業	14,600 人
C. ハピネスふくちやま活用事業 ハピネスふくちやまでの子育て世代の教室及び健康推進事業、障害者生活支援事業、男女共同参画推進事業等を実施する事業	6,000 人
D. 佐藤太清記念美術館特別展事業 福知山市名誉市民である佐藤太清画伯の特別展を開催し、福知山市民としてのアイデンティティ増幅に寄与する事業	2,000 人
E. 駅北口公園賑わい事業 福知山駅北口公園を活用し、賑わいあるイベント等を活用のマネジメントを行う事業。	3,600 人
F. 福知山城観光駐車場拡張事業 福知山城周辺施設の利用促進のため、長年の課題である駐車場不足を解消するため、観光駐車場を拡張する事業	3,628 人
G. 観光情報発信力強化事業 城下町福知山の観光情報を広域に発信し、利用者増につなげる事業	1,000 人
A～Gの効果による文化・交流施設の利用者の増加	34,769 人 >33,896 人

〈目標数値達成の根拠〉

A. 厚生会館改修事業

本市の文化振興の拠点である厚生会館について、社会環境に即した改修を行なうとともに、機能改善を目指すものであり、平成26年度の利用者数を基準に5%とする。

●機能改善による利用者の増加

78,829人×5%＝3,941人

※5%については、平成23年度から平成26年度までの過去4年間の平均増加率が3%であったことに加え、努力増加率(+2%)の和を乗じた目標値とする。また、市が策定中の「未来創造 福知山基本計画(案)」による文化施設全体の目標が5%であることから大型集客施設である厚生会館も同様の利用者数として引き上げる。

B. 市民交流プラザふくちやま活用事業

前回計画期間に福知山駅前の隣接地に整備した市民交流プラザふくちやまの生涯学習センターを活用し、市民の社会参加の機会提供、新たな価値との出会いの場の提供等を目的として、広報活動の充実を図り、講座開設者や企業の研修会利用を募ることで、市民活動を広げるコミュニティマネジメント事業。

●生涯学習センターの利用者数の増加

2講座及び研修会利用/日×365日×平均20人＝14,600人

※施設稼働率の平均が51%（平均27年11月末現在）であり、そのうち講座や研修会等に使用可能な部屋として、1日あたり2部屋以上が空いている状況から、新たに2件の新規利用を促進し、利用者数の増加を図る。1件当たり利用人数については施設の一部屋あたりの平均利用実績から設定する。

C. ハピネスふくちやま活用事業

ハピネスふくちやまでの子育て世代の教室及び健康推進事業、障害者生活支援事業、男女共同参画推進事業等を実施する事業。

●各種講座や勉強会の開催による利用者増

月10回×50人＝6,000人

※ハピネスふくちやまについては、各階により会場の機能が別れており、1階で平均すると1回約48人の利用で、2階及び3階で1回約52人の利用から、ハピネスとしての1回あたりの講座及び勉強会は約50人となる。

D. 佐藤太清記念美術館特別展事業

福知山市佐藤太清記念美術館特別展を開催することで、福知山市民に対しては潜在的な文化意識を引き出し、市外の住民に対しては福知山の文化を伝達することで愛着を深めてもらうための事業。

●特別展開催による利用者の増加

2,000 人増

※平成 27 年度に実施された特別展の平均来場者数は 1,500 人であり、当事業では、およそ 1.3 倍となる 2,000 人（平成 26 年度、生誕 100 周年実績 4,000 人の半分程度）を目標とする。

E. 駅北口公園賑わい事業

福知山駅北口公園を人が集まる場として活用するために、周辺のまちづくり組織と連携し、定期的なイベントの実施などを行う事業。300 人集客のイベントを年 12 回開催すると、

●イベントによる利用者の増加

300 人 × 12 = 3,600 人増

※ゆらのガーデンにおけるイベントの集客実績（平均 300 人）と同程度と想定する。

F. 福知山城観光駐車場拡張事業

福知山城観光駐車場が満車になることで福知山城に立ち寄ることを諦めていた観光客に立ち寄ってもらえるよう、駐車場を拡張して利用者数をあげる。駐車台数を 62 台から 72 台に拡張することで、郷土資料館年間利用者数 36289 人が 10% 増加するとして、

●駐車場を拡張することによる利用者の増加

36,289 人 × 約 10% (72 台 / 62 台) = 3,628 人増

G. 観光情報発信力強化事業

海の京都「お城とスイーツを巡るまちなか観光」福知山市マスターplanにもとづき、観光の情報発信として、ゆらのガーデンに Wi-Fi スポットを設置し、観光情報入手の利便性を図ることで、ゆらのガーデン利用者（年間約 10 万人）の 1% が歴史文化・交流施設を利用するととして、

●情報発信による利用者の増加

100,000 人 × 1% = 1,000 人増

※ゆらのガーデンの来客者アンケート（平成 27 年 6 月実施）において、フリー Wi-Fi に接続してスマホに観光情報が入ってきた場合、「利用することを検討する」とした割合が 10% であり、そのうち周辺観光施設を利用していない人の割合より推測。

③フォローアップの方法

フォローアップの方法としては、計画期間中、年間の利用者数を各施設で計測し、福知山市によりとりまとめを行う。

(4) 「新規店舗開業数」



①数値目標の設定理由

中心市街地に魅力的な店舗が集積することによるエリアの価値向上を目的とし、まち歩き観光を推進するルートづくりを強化させるため、前回計画で整備した商店街を中心にさらに店舗数を増加させ、福知山駅や福知山城からのまちなか回遊を促進し、三つの拠点施設をつなぐルート上の直線上にも事業が起こせるように配置していく。また事業主体については、福知山まちづくり株式会社等民間が主体としてテナントミックス事業を進め、タウンマネージャー等がサポート体制を築く。

前回計画では、ルート上に、テナントミックス事業 4 店舗、総務省関係補助事業 2 店舗、空き店舗チャレンジ事業 4 店舗の計 10 店舗がオープンした。今後は、福知山まちづくり株式会社等民間が主体としたテナントミックス事業や様々な創業支援も行いながら、タウンマネージャー等のサポート体制も強め、魅力ある店舗の増加を進めていく。

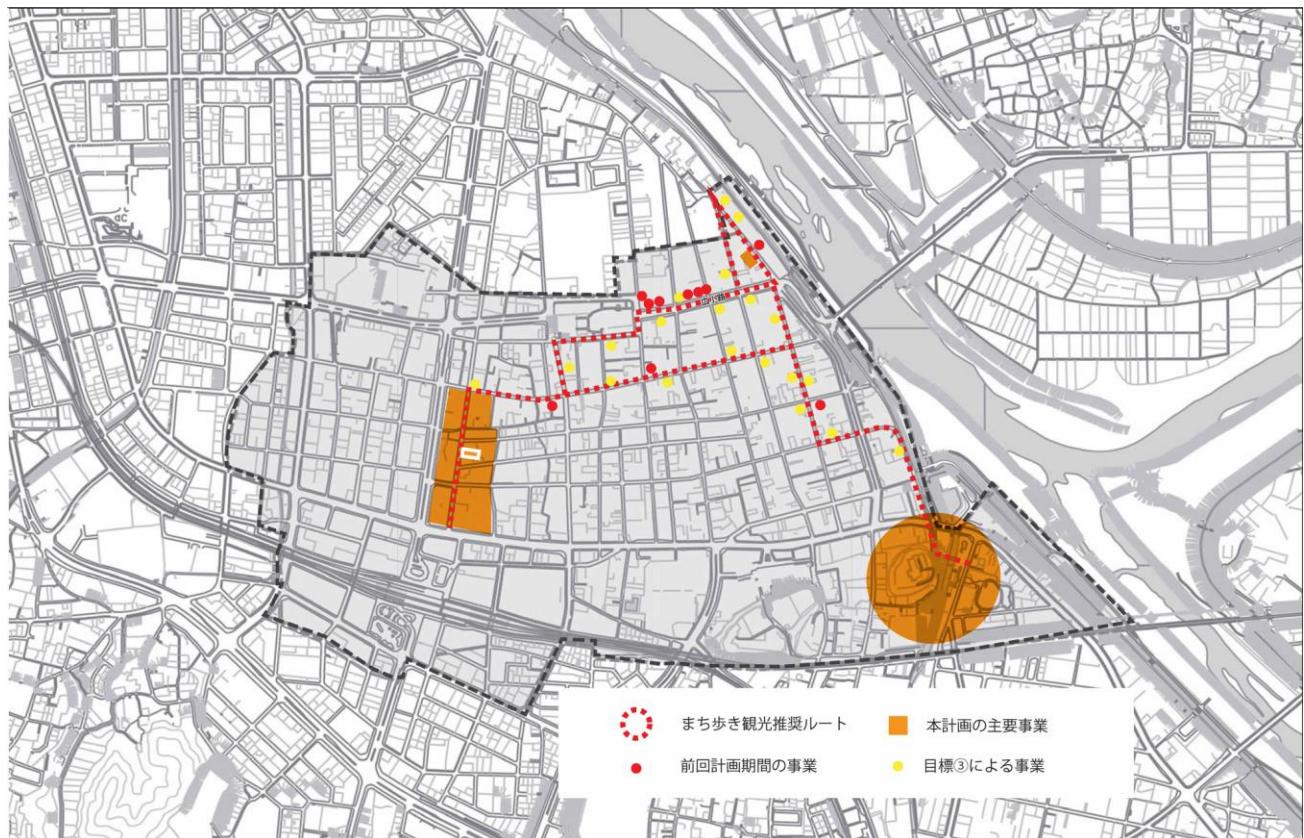


図 テナントミックス推進事業箇所イメージ

②目標達成のための事業展開

〈目標数値について〉

前回計画期間では 10 店舗であった、広小路とゆらのガーデンを繋ぐ導線上や広小路界隈におけるテナントミックス事業・創業支援による新規店舗開業数を、新計画期間で 20 店舗開業することを目標数値とする。

現状	10 店舗
A. 中心市街地テナントミックス推進事業 中心市街地内における空き家を利用した飲食・物販等のショップ開業に対し、経済産業省の補助金活用の自己負担分の補助やタウンマネージャーの支援を実施する事業	5 店舗
B. 中心市街地創業支援事業 中心市街地での起業・創業対象者に、起業塾や先進事例の視察などを開催し、開業支援を行う事業	15 店舗
A～Bの効果による新規店舗開業数の増加	20 店舗

〈目標数値達成の根拠〉

A. 中心市街地テナントミックス推進事業

中心市街地内における空き家を利用した飲食・物販等のショップ開業に対し、経済産業省の補助金活用の自己負担分の補助やタウンマネージャーの支援を実施し、テナントミックス事業として、毎年 1 店舗、計 5 店舗の開業を目指す。

1 店舗/年 × 5 年 = 5 店舗

※中心市街地で求められる賑わい創出事業としては、地域住民のニーズ調査においても「気軽にランチができるお店」は 48% というアンケート結果が出ており、店舗開業に対する高い期待が伺える。前回計画においてテナントミックス推進事業を利用した新規店舗開業数は 4 店舗であり、また、空き家・空き店舗等ストックバンク推進事業においても、平成 27 年度に利用し開業した店舗の中に、テナントミックス推進事業の活用を検討した店舗が 1 件あったことから、今回計画の平成 28 年度から平成 33 年度においては、毎年 1 店舗、計 5 店舗の開業を目標とする。

B. 中心市街地創業支援事業

中心市街地での起業・創業対象者に、起業塾や先進事例の視察などに支援を行うものであり、『福知山市創業支援事業計画』に基づき『創業相談窓口』の設置や『起業セミナー』、『起業実践塾』の開催、『専門家派遣』による伴走型支援など、総合的な支援を実施し起業塾に参加した者などが毎年 3 店舗開業することを目指す。

3 店舗/年 × 5 年 = 15 店舗

※市の創業支援計画における日本政策金融公庫や商工会議所などの関係機関への聞き取り調査によると、平成 25 年度の市内全体の創業者数は 17 人で、平成 26 年度では 13 人であったことから過去 2 カ年の平均の市内全体の創業者数は年間平均 15 人とし、また平成 27 年度（4 月から 11 月末時点）の創業者数では市内全体で 5 人であり、うち 1 人が中心市街地の創業者であったので、年間平均 15 人の 20% である 3 人が年間に店舗を開業することとして想定した。

③フォローアップの方法

フォローアップの方法としては、計画期間中の開業数を福知山市が把握し、とりまとめを行う。